



# JAL不当解雇撤回ニュース

No468号 2015.11.26  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekkai.com>

## 京セラ代表者が要請書正式受け取り

### 11.10 稲盛財団 京都賞授賞式 抗議・宣伝行動

ハンドマイクで呼びかける向こうに、ちょっと今年はやい紅葉でまだ緑多い美しい比叡山の山並みを望みながら、稲盛財団の京都賞授賞式参加者へのJAL165名不当解雇撤回を求めるピラマキ宣伝行動を行なった。

11月10日、昨日までの雨が嘘のように晴天に恵まれ絶好の宣伝日和。地下



鉄から上がってきて授賞式会場・国立京都国際会館に向かう地点で、JAL 不当解雇撤回争議団・内田妙子団長はじめたくさんの原告団や、主催した「日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議」に結集するたくさんの労組や「JAL 闘争を支える京都の会」の仲間が参加した。

「路上に駐車するな」という国際会館＝京セラ側の言に従って、京都総評の宣伝車は会館前や会場周辺をJAL 争議団や支援の仲間がマイクを握って流し宣伝を並行して行なった。

この賞の授与は今年で 31 回目らしい。毎回内外の学者・文化人に 1 人 5,000 万円の賞金を渡すという。たびたび経済界の雑誌からさえ暴露されている「もうけなくして安全なし」というような稲盛イズムで、JAL 再建の株等で不当に儲けたようなお金も使い、札束で人のほっぺたをひっぱたくような行事が連綿と続けられてきた。

会館の責任者であるとかいう人が最初に現れ、警告書だかなんだかを示し、「すべてここは私どもの土地だからいつものようなことはしてはならない」とし、ものものしい皆さんの人間で固めて、大きな看板も横断幕も広げられることを阻止し、宣伝行動を妨害しようとする。

しかし私たちは内田団長をはじめ、果敢に宣伝行動を開始した。全国一般、全印総連、自治労連、JMIU、

JAL 闘争を支える京都の会、明治乳業争議団などたくさんの支援の仲間から激励・連帯の挨拶をハンドマイクでしていただく。

40 分ほど宣伝したところで、JAL 争議団の内田団長、鈴木圭子副団長、京都総評・梶川憲議長、JAL 闘争京都支援共闘・稲村守事務局次長などで、稲盛和夫元 JAL 会長あての争議解決を求める要請書を提出に会場に向かう。途中で、「京セラの玉泉」を名乗る人物が現れ、「私が申入れを受け取る」というので、内田団長からは「今日も東京で座り込みしている。いつも JAL 本社に要請文を持参して直接面談を申し入れているが、毎回部下に対応させ門前払いの繰り返しであること。客室乗務員をたくさん採用しながら、会社都合で解雇した 84 名を戻さないのは不条理であること。ILO が職場復帰させるための協議を求める勧告をしていること。当時解雇回避の方法がありながら解雇を強行したが、交渉過程で起きた不当労働行為が高裁でも断罪されたのであるから、解雇問題につ



いて解決する決断を下すべきであること。当時会長であった稲盛和夫氏

にその責任があること。パイロット不足は由々しき事態であること”を縷々表明し、申入れ文書を全文読み手渡した。

玉泉氏は「稲盛会長に手渡すように」という梶川京都総評議長の申入れに確約する旨返答。

最後に、JAL 争議団・鈴木副団長の発声で稲盛名誉会長に届く大きなシュプレヒコールで抗議・宣伝行動を閉じた。

(JAL 闘争京都共闘 稲村守事務局次長)